

3. ゾーニング案と 有効活用方策案（ゾーン毎の将来像）について

旭川河川環境管理基本計画に基づく基本理念

貴重な河川環境と、それが育んできた地域の風土や文化を守り育てるとともに、治水・利水機能と調和した適正な河川空間の保全と創造を図る。

百間川河口水門周辺有効活用の方針（案）

①現況自然環境の保全

中州の適正な管理
生物生息環境や高島干潟の保全
水質、底泥の改善等による河川環境の保全

②歴史的功績（治水・新田開発）の継承

河口水門部の歴史的な役割と変遷の継承
河口水門築造に携わった人々の功績の継承

③地域風土と地域文化の継承

干拓から始まった地域風土の継承
史跡、名勝、祭事など地域文化の継承

④地域に親しまれる水辺空間の創造

身近な自然にふれあえる水辺空間の創造
自然観察・散策など自然を活用した
レクリエーション空間の創造
人々がやすらぎ・交流できる河川空間の創造

⑤地域社会の意向や将来動向への配慮

周辺施設や周辺計画との調整と連携
地元の意向や既存活動への配慮

河口水門周辺ゾーニング（案）の検討

現計画による空間配置

旭川水系河川環境管理基本計画(建設省・岡山県:平成元年3月)

水域空間

自然ゾーン

- ・広い水面のつくる開放的な河川景観の保全を基調とし、原則として治水・利水目的以外の人工的改変を行わない。
- ・水面の秩序ある利用を推進する。



陸域空間

自然利用ゾーン

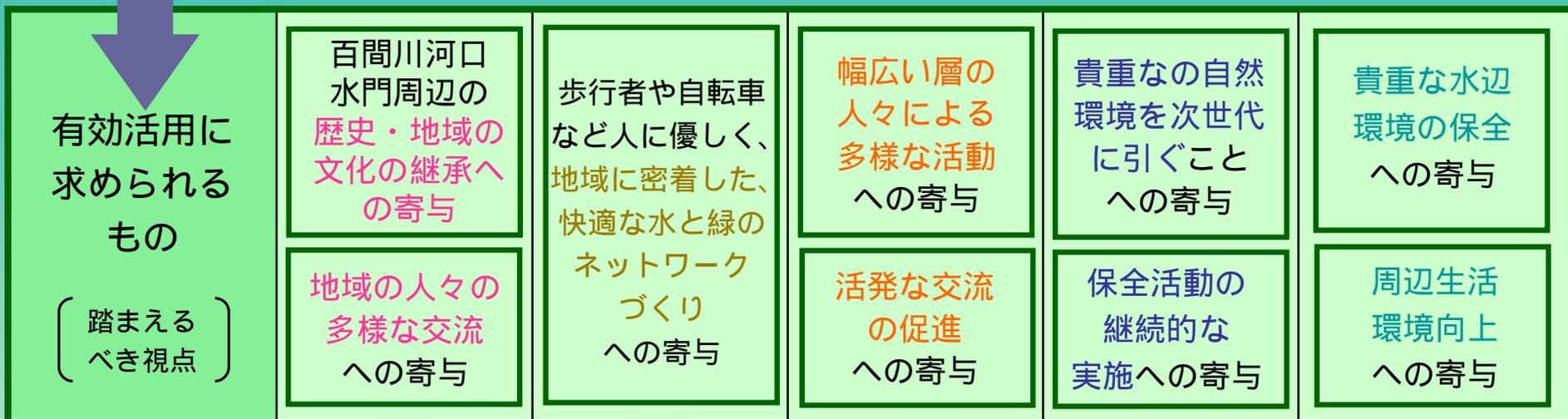
- ・百間川の身近な自然とふれあい楽しむことのできるよう野草広場、自然観察広場を整備する。
- ・高水敷や水辺の植生を保全するとともに、自然を生かした河岸整備を検討する。

整備ゾーン

- ・広い高水敷を活用し、運動広場・野球場・テニスコート等のスポーツ施設や、イベント等の行える多目的広場・芝生広場を整備する。
- ・運動施設の配置は連続させることなく、自由に利用できる広場等を適宜配置する。
- ・百間川の歴史や文化を学習し、川への親しみを養う場として、歴史の広場を整備する。
- ・高水敷と低水路を有機的に結び、より自然的な河川空間を創造し、親水性を向上させるため、緩傾斜護岸や親水護岸を整備する。
- ・施設を有機的に結ぶサイクリングコース、遊歩道を整備する。

有効活用に向けた空間配置の方向性

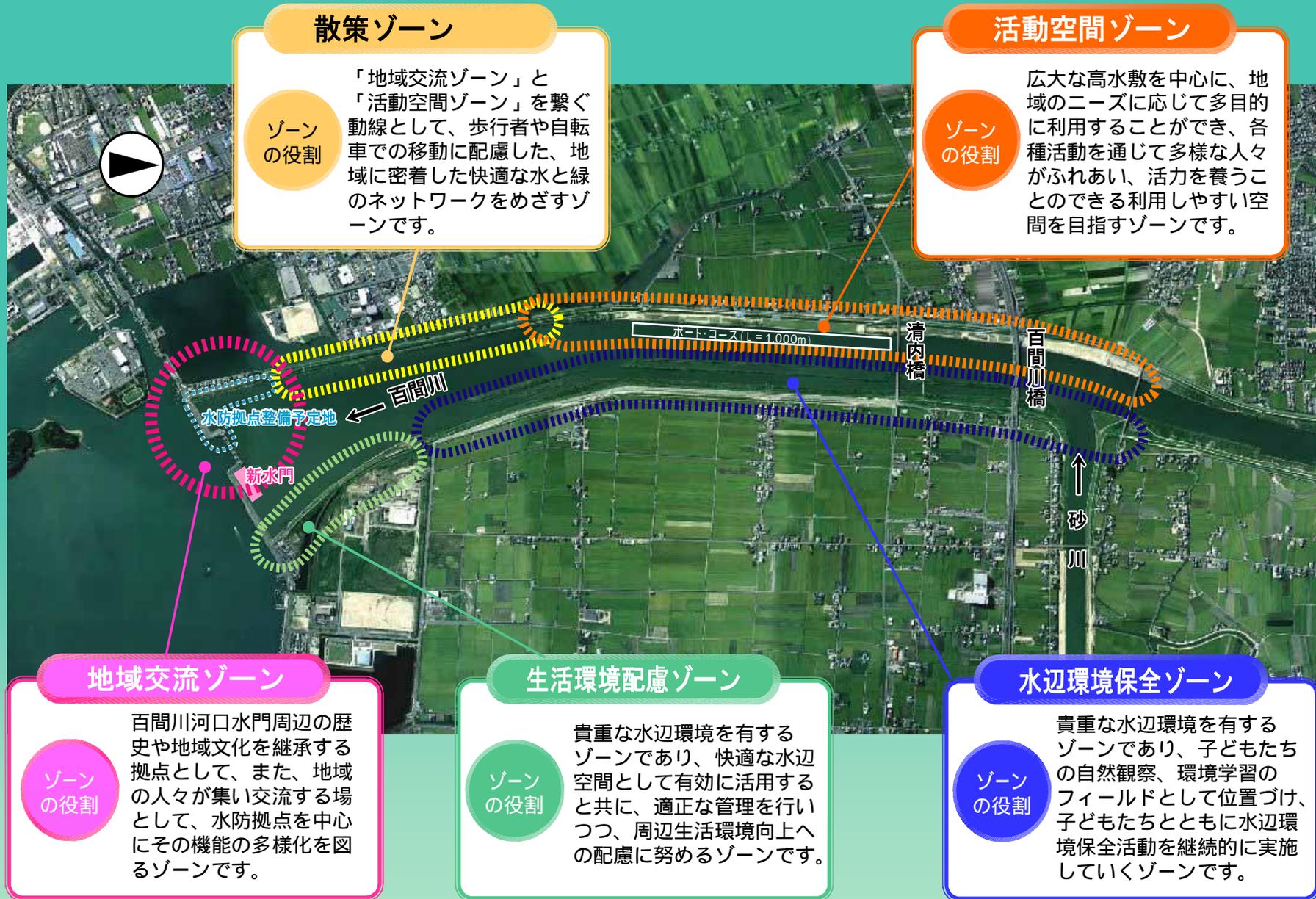
旭川河川環境 管理基本計画 に基づく 空間配置	自然利用ゾーン（陸域）
	整備ゾーン（陸域）
	自然ゾーン（水域）
百間川河口水門 周辺有効活用 の方針	現況自然環境の保全 歴史的功績（治水・新田開発）の継承 地域風土と地域文化の継承 地域に親しまれる水辺空間の創造 地域社会の意向や将来動向への配慮
地域からの 提案・意見	水防拠点整備について 漕艇会場の跡地利用について 中州の保全について 三角地整備について（百間川河口東側） 歴史の継承について 周辺道路整備について 桜の植栽について 水質浄化について 河口周辺の美化



「河口水門周辺の有効活用に向けたゾーニング案」の設定

河口水門周辺 有効活用に向けたゾーニング案

“有効活用に向けた空間配置の方向性”を踏まえた「5つのゾーン」を設定



河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

有効活用方策の検討に向けた基本的な考え方

近年の厳しい財政状況やニーズの多様化など公共工事を取り巻く環境が大きく変化するなか、将来にわたって、河口水門周辺の自然環境の保全や向上など、適切かつ持続可能な空間の利活用を図る必要がある。

有効活用とは・・・

施設の整備だけにとどまらず、例えば、適正なルールに基づいて河川空間沿いを花で飾ることや、不法投棄などをしないなど、河川空間の利用のマナーを守ることなども含む総合的な取組み。

実りある有効活用をすすめるために・・・

河口水門周辺に係わりのある「利用者や地域の方々」、「河川管理者」、「関係自治体」が、ともに、河口水門周辺の有効活用に向けた共通のビジョン（将来像）を共有し、しっかりとした連携と共創の下、継続性を持って着実に河口水門周辺の有効活用に取り組んでいくことが不可欠。



有効活用方策の内容（案）

ゾーニング
(ゾーンの役割：5つのゾーン)

A：ゾーン毎の将来像
(基本理念)

- * どんな空間を目指すか。
- * どのように利用していくか。

その実現化を図る
ためには・・・

B：アクションプラン
(実現化に向けた取組み)

- * どんな取組みが必要か。(短期的・長期的)
- * 地元として何ができるか。
- * 行政として何ができるか。
- * どのように協力・連携していくか。

住民と行政の連携と共創による継続的な取組み

ゾーン毎の将来像の設定

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 * どんな空間を目指すか。* どのように利用していくか。

河口水門周辺有効活用に向けた

ゾーン毎の将来像 (基本理念)

ゾーンの基本理念

1. 日々の暮らしのなかで水や緑を感じ、楽しむことができる空間の形成
2. 地域が中心となった水や緑の空間づくりを実践する場の形成

ゾーンの基本理念

1. 水辺と親しみ、ふれあいを育む快適な広域活動拠点の形成
2. 関係機関や地域との連携による快適な利用環境の形成



ゾーンの基本理念

1. 地域づくりの中心となる地域住民交流の場の形成
2. 地域活動を支える円滑な交通処理（道路網の形成）の充実

ゾーンの基本理念

1. 多様な人々が気軽に憩える快適な水辺空間の形成
2. 関係機関や地域との連携による快適な周辺環境の形成

ゾーンの基本理念

1. 中州をはじめとした貴重な自然環境の維持・保全
2. 自然の大切さを学べ、地域生活に密着した水辺空間の形成

河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 * どんな空間を目指すか。* どのように利用していくか。

ゾーン毎の将来像の設定

旭川河川環境管理基本計画に基づく空間配置
 有効活用の5つの方針
 地域からの提案・意見

反映し、将来像を設定

有効活用に求められるもの
 有効活用に向けたゾーニングとその役割

地域交流ゾーン

ゾーンの基本理念

1. 地域づくりの中心となる地域住民交流の場の形成

目指すべき将来像

地域住民の自由な利用・交流を支える場
 地域の安全と防災活動を支える場
 百間川河口水門の歴史継承を支える場

2. 地域活動を支える円滑な交通処理（道路網の形成）の充実

目指すべき将来像

地域活動や防災、日常の維持管理活動を支える交通環境

利活用方針(案)

地域の人々が気軽に集まれるふれあいの場として利用しやすい空間をめざす。

地域の自主的な防災活動の中心となる場として活用しやすい空間をめざす。

百間川の歴史を語り伝える中心となる場として充実した空間をめざす。

地域の日常生活や緊急時のスムーズな各種活動を支える交通環境の向上をめざす。

【有効活用イメージ】

地元のお祭りなどの会場として使う。
 豊かな緑に囲まれ、百間川の水辺を眺めながら散策や運動などを楽しむ。



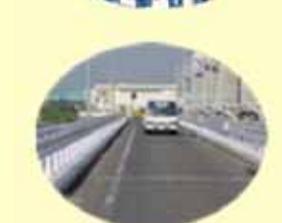
地元が主催する防災訓練の会場として使う。
 防災についての心得を学習する場として使う。
 災害など緊急時には地域の安全を確保する場所として機能する。



子どもたちが百間川の歴史にまつわる様々な資料に見て、触れて学ぶ。



水防拠点を中心に周辺地域間の連絡が安全でスムーズに行える。
 安全かつスムーズに日常の移動が行える。



河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 *どんな空間を目指すか。*どのように利用していくか。

ゾーン毎の将来像の設定

旭川河川環境管理基本計画に基づく空間配置
 有効活用の5つの方針
 地域からの提案・意見

反映し、将来像を設定

有効活用に求められるもの
 有効活用に向けたゾーニングとその役割

散策ゾーン

ゾーンの基本理念

1. 日々の暮らしのなかで水や緑を感じ、楽しむことができる空間の形成

目指すべき将来像

川沿いを心地よく歩くことができ、水辺の潤いある景色に溶け込むことの出来る場
 緑や草花による水辺の景色

2. 地域が中心となった水や緑の空間づくりを実践する場の形成

目指すべき将来像

地域が主体となって緑や草花による心地よく潤いある景色を作り出す実践の場
 地域が主体となって心地よく潤いある景色を守り育てる仕組みを作り上げる場

利活用方針(案)

水と緑のネットワークにより川辺の良さを感じられる景色を演出する

地域の多様な工夫やアイデアによる自然環境の保全や維持管理を進めるモデルとなる地区をめざす。

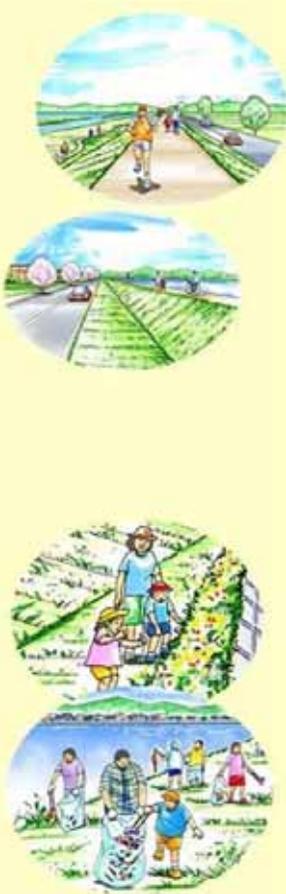
【有効イメージ】

草花をうえるなど堤防沿いの潤いを高める。

豊かな緑や草花に囲まれ、百間川の水辺を眺めながらジョギングや散策などを楽しむ。

地域が主体となって清掃を定期的に行う。

自主的な緑化活動とその維持管理を進める。



河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 * どんな空間を目指すか。* どのように利用していくか。

ゾーン毎の将来像の設定

旭川河川環境管理基本計画に基づく空間配置
 有効活用の5つの方針
 地域からの提案・意見

反映し、将来像を設定

有効活用に求められるもの
 有効活用に向けたゾーニングとその役割

活動空間ゾーン

ゾーンの基本理念

1. 水辺と親しみ、ふれあいを育む 快適な広域活動拠点の形成

目指すべき将来像

スポーツ・レクリエーション、イベントなどに自由利用できる場
 安心して利用しやすい交流の場
 緑や草花による水辺の景色

2. 関係機関や地域との連携 による快適な利用環境の形成

目指すべき将来像

地域の連携による不法投棄や不適切利用への対策と河川空間を守り・育てる意識啓発

利活用方針(案)

多様な人々が快適に活動できる多目的空間をめざす。

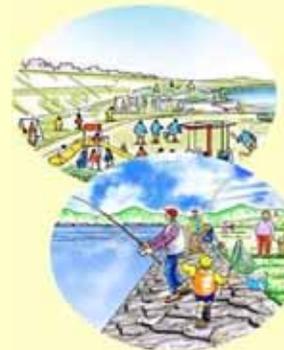
水と緑のネットワークにより川辺の良さを感じられる景色を演出する。

地域ぐるみによる多目的空間や周辺環境の維持管理を進め快適な空間をめざす。

地域の多様な工夫やアイデアによる活動空間をめざす。

【有効活用イメージ】

地元のお祭りなどの会場として使う。
 豊かな緑や草花に囲まれ、百間川の水辺を眺めながら散策や運動などを楽しむ。
 水面では若者たちの活気あるボート競技が行われる。



草花をうえるなど堤防沿いの潤いを高める。
 豊かな緑や草花に囲まれ百間川の水辺を眺めながらジョギングや散策などを楽しむ。



地域が主体となって清掃を定期的に行う。
 不法投棄や不正な利用がないか、定期的に監視する。

地域が主体となってイベントや活用のメニューを工夫する。
 周辺地域共有の「集いの場」をめざす。



河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 *どんな空間を目指すか。*どのように利用していくか。

ゾーン毎の将来像の設定

旭川河川環境管理基本計画に基づく空間配置
 有効活用の5つの方針
 地域からの提案・意見

反映し、
将来像を
設定

有効活用に求められるもの
 有効活用に向けたゾーニング
 とその役割

水辺環境保全ゾーン

ゾーンの基本理念

1. 中州をはじめとした貴重な自然環境の維持・保全

目指すべき将来像

中州をはじめとした自然環境をそのままの状態を壊すことのないように環境を守る場
 不法投棄などから河川空間を守り・育てる場

2. 自然の大切さを学べ、地域生活に密着した水辺空間の形成

目指すべき将来像

環境学習等の自然と触れ合い、学ぶ場
 地域文化を支える緑の景観や交通環境をサポートする場

利活用方針(案)

中州やその周辺を自然のままの状態ですることのないように守る場所とする。

地域ぐるみによる周辺を自然環境の保全や維持管理を進めるモデルとして誇れる場所をめざす。

自然のままの状態である中州やその周辺を環境学習などに活用できる空間をめざす。

堤防を有効活用することによる景観や地域の生活利便性の向上をめざす。

【有効活用イメージ】

中州周辺の水辺や集まる生き物などを眺めながら散歩する。



地域が主体となって清掃を定期的に行う。
 不法投棄や不正な利用がないか、定期的に監視する。



子供たちのための環境教育などで、水辺の自然を学ぶ。



草花をうえるなど堤防沿いの潤いを高める
 周辺地域間の連絡が安全でスムーズに行える。



河口水門周辺 有効活用方策の検討に向けて

A：ゾーン毎の将来像（基本理念）
 *どんな空間を目指すか。*どのように利用していくか。

ゾーン毎の将来像の設定

旭川河川環境管理基本計画に基づく空間配置
 有効活用の5つの方針
 地域からの提案・意見

反映し、
 将来像を設定

有効活用に求められるもの
 有効活用に向けたゾーニングとその役割

生活環境配慮ゾーン

ゾーンの基本理念

1. 多様な人々が気軽に憩える 快適な水辺空間の形成

目指すべき将来像

自由に利用できる場
 健康増進等の散策の場
 緑や草花による水辺の景色

2. 関係機関や地域との連携 による快適な周辺環境の形成

目指すべき将来像

地域活動を支える交通環境の充実
 近隣居住環境への配慮
 地域の連携による車両進入・不法投棄対策、
 河川空間を守り・育てる意識啓発

利活用方針(案)

人々が安全・気軽に近づけ、憩える水辺空間をめざす。

水と緑のネットワークにより、川辺の良さを感ぜられる景色を演出する。

地域ぐるみによる周辺を自然環境の保全や維持管理を進め快適な水辺空間をめざす。

【有効活用イメージ】

川沿いを気持ちよく歩くことができ、水辺の自然とも触れ合うことができる。



草花をうえるなど堤防沿いの潤いを高める



豊かな緑や草花に囲まれ百間川の水辺を眺めながら散策などを楽しむ。

地域が主体となって清掃を定期的に行う。



不法投棄や不正な利用がないか、定期的に監視する。

アクションプランの策定

ゾーン毎の将来像 (基本理念)

- * どんな空間を目指すか。
- * どのように利用していくか。

河口水門周辺の有効活用に向けた共通のビジョン (将来像) を共有

相互に日頃から十分なコミュニケーションを図り、緊密な連携・協調の下に協力関係を築き、具体的に行動することのできる体制を明確にしていく。

有効活用の
ビジョンを「共有」

河口水門周辺のビジョン

- * どんな空間を目指すか。
- * どのように利用していくか。
- * 何ができるか。

関係自治体 地域・利用者 河川管理者

共通のビジョン(将来像)を共有
しっかりとした連携と共創

●岡山河川事務所

河川管理者

- 情報共有
- 協働

- 情報共有
- 協働

★合意形成

実現化に向け必要なことは…

百間川河口水門周辺の望ましい有効活用の実現

自治体

- 岡山県
- 岡山市

市民

- 町内会等自治組織
- 利用者団体
- ボランティア団体
- 漁業協同組合 等

★合意形成

役割分担の明確化

- 情報共有
- 協働

実現に向けた取り組みのビジョンを「共有」

アクションプラン

(実現化に向けた取り組み)

- * どんな取り組みが必要か。(短期的・長期的)
- * 地元として何ができるか。
- * 行政として何ができるか。
- * どのように協力・連携していくか。
- * 役割分担を明確にする。

次回協議会にて検討

住民と行政の連携と共創による取り組みをすすめるための共有すべき方針が必要